

# アイキャンだより

2002年9月  
第28号

## 特集 パヤタスの子ども達のために

### 栄養改善プログラム報告

ルーシー・トレス p. 2-3

パヤタスでコンサート! 田村 p. 3-4

新ボランティア自己紹介 竹内 p. 4-5

伊藤洋子さんが日本に来ます p. 6

写真展「パヤタス・ゴミ捨て場から」開催 p. 6

国際理解イベント報告 松岡・飯田・守屋  
p. 7-9

私のNGO参加 松井 p. 10

国際協力フェスティバルに参加します p. 10

サマーカードキャンペーン報告 p. 11

HAPPY NEW YEAR カードを送ろう 松岡 p. 11

ありがとう (文具/葉書/缶カ) p. 12

会員になって活動を支えよう!! p. 12

ICAN (アイキャン)

特定非営利活動法人

アジア日本相互交流センター



〒450-0003

名古屋市中村区名駅南

1-20-11 NPO プラザなごや2F

TEL&FAX (052) 582 - 2244

E-mail : ican@jca.apc.org

ホームページ : <http://www.jca.apc.org/ican/>

### 会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO 法人 ICAN, 00850-6-78233

銀行) UFJ 銀行 名古屋駅前支店 普通 2361021

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター

## パヤタスの子ども達に笑顔を!

## フィリピンで、日本で、できること



巨大なゴミ山と、その近くのコミュニティで生活する子ども達

9月21日、国際理解講座最終回です。ぜひご参加ください!(P.8-9)  
パヤタス写真展、ウィルあいちにて、10月開催!! (P.6)

# パヤタス 医療支援プログラム報告

地域住民の健康改善を目指して

エリアヘルスワーカー ルーシー・トレス

私はルーシー・トレス、42歳です。子どもが3人います。パヤタスのごみ捨て場のすぐそばに住んでいます。そこでは、ICANとSALTのプログラムがあります。私たち夫婦は、1990年からごみ拾いをして生活の糧を得ていました。

1997年にSALTのエリアコーディネーター(以下AC)になり、医療支援プログラムを担当することになりました。



ここパヤタスの、特にスカベンジャー(リサイクルできるごみを拾って換金し、生計を立てている人々)は、さまざまな病気に苦しめられています。それは、ごみ捨て場からの悪臭や、ごみ捨て場から出る人体に有害な化学物質にさらされていることや、栄養状態が悪いからです。子どもから大人まで多くの人々が結核に苦しんでいます。常時、ごみ捨て場からごみが自然発火し、煙が出ており、大気が汚染されているので、喘息の人もたくさんいます。くぎや先が尖った危険物でけがをして、破傷風になって亡くなる人もいます。

貧しいがために、薬を買えずに苦しんでいる人がたくさんいます。はしかやデング熱や小児結核で命を落とす子どももいます。

このような危険な環境にさらされているパヤタスの子どもや大人**の健康状態を改善していくことを目指し、ICANとSALTは共同で、医療支援プログラムを行っています。**

ACは、パヤタスの医療プログラムのコーディネートを行います。SALTのACは5人いますが、私を含めて3人は、コミュニティーヘルスワーカーのトレーニングを受けています。ですから、急患が出たときには薬をあげたり、傷の手当てをすることができます。また、以前、ICANの会員の方から吸入器をご寄付いただきましたが、そういった器具の操作もできます。

医療支援では、毎週土曜日の1時半から4時まで、SALTのケアセンターで、無料診療活動を行います。診療は有給ボランティアの医師が行います。私達ACは、受け付けで問診を行い、医師のアシスタントをします。ケアセンター内に住民薬局があるので、患者さんは無商標の薬を安価で購入することができます。私達は、医師の処方した薬の販売も行い



問診をするルーシーさん

ます。住民薬局の運営や会計も私達ACの仕事です。

毎週月、水、金曜日には栄養プログラムの給食があります。6ヶ月から3歳未満の子どもたちに、給食を提供していますが、そのお母さんたちが調理や後片付けをしますので、献立を作ったり、調理の指導などを行っています。また、月に一回は、栄養や子育てや家族計画についてのセミナーを開いています。



調理をするお母さん達



栄養改善プログラムの様子

ここパヤタスは非常に困難な状況であります。私はコーディネーターとして地域の人々の役に立てることをとても嬉しく思っています。

また、日本の方々のこれまでのご支援に感謝いたします。そして、まだまだ多くの支援を必要としている人々が同じアジアの国にいることを多くの方に知っていただきたいと思っています。特に子どもたちが医療での支援を必要としています。

## 現地ボランティア報告 ~ パヤタスの子ども達とコンサート！ ~

田村陽子

「アテ(お姉さん)。｣と満面の笑顔で走ってくる子ども達を見ると、こちらまで思わずニコニコしてしまいます。まだ、やっと立てるようになった子どもが、音楽に合わせてお尻をフリフリ。こんなに小さいころから踊っていたのなら、上手になるはずですね。パヤタスでも子どもたちはとてもダンスが上手です。

「子ども達と何かをしたい！」子どもが大好きな私は、パヤタスに行く度に思います。

月に1回日曜日、青年海外協力隊の理数科教師としてフィリピンにいられていた方が、パヤタスで理科の授業をして下さっていました。先生オリジナルの教材が飛び出すと子ども達の目はくぎ付けで、「理解できた？」と先生が問い掛けると、「Opo!(はい)」と元気に返事をしていました。



マラカスを演奏する子ども達

その先生と相談をし、先生の最終授業の後にパヤタスでリコーダーのコンサートを開く計画を立てました。音の授業でコップとお米でマラカスを作り、子ども達にはそのマラカスを持ってコンサートに来てもらいました。子どもたちはとても気に入ったらしく、リコーダーの音が聞こえないくらい思いっきりマラカスを振っていました。先生が、「リコーダーを聞きながら、それに合わせて振らないとだめだよ。」と何度言われても、めいっぱい振っている子どもたちは、とてもかわいかったです。また、リズムの組み合わせを変えたり、速さを変えたりして遊びました。みんなとてもリズム感よく、もっと、もっとと催促していました。

コンサートでは、讚美歌・日本の曲・ビートルズなどパヤタスのお母さんや高校生が知っていると教えてくれた曲など、全部で11曲演奏しました。マラカス以外にもタンバリンやトライアングルなどの打楽器を持ちこんで、子ども達に演奏してもらいました。体全体でリズムに乗りながら、タンバリンを演奏している小さな女の子がいたのですが、どうしても「ウン・パン・ウン・パン。」のところを「パン・ウン・パン・ウン。」と。最後まで結局、直らなかつたのですが、でもはじけるような笑顔で演奏していた彼女が私は忘れられません。



リコーダーコンサート、左が田村さん

7月の下旬から、毎週日曜日に子ども達と本を読んでいます。10時～11時は、1年生から3年生、11時～12時までは4年生から6年生です。本を読んでもらうというボランティアさんに交代でパヤタスに通ってもらっています。その後に、算数の勉強を少し…。また日曜日、笑顔のかわいい子ども達に会えることが楽しみです。

## 現地ボランティア報告 ～自己紹介&初めての読み聞かせ～

竹内弥生

こんにちは、今年の8月6日からICANで現地ボランティアとしてフィリピンに滞在している竹内弥生と申します。11月の終わりまでこちらでボランティアをしながら、パヤタスで修士論文のテーマである水の調査をする予定です。

短大のとき、ミンダナオで井戸掘りの技術支援をしているNGOのエクスポージャーツアーに参加して以来、水によって貧困が左右されているという現実にショックを受け、それ以来漠然とですが水に興味をもっていました。そしてそれからだいぶ後になるのですが、フィリピンで水の民営化が1997年にあったことを最近知り、民営化の目的がスラムなどの貧困地区の水の状況を改善することにあるという文章を読みました。しかし、実際にどうなのか、本当に貧しくて水道代が払えない人は、民営化の対象から外されてしまうのではないかと思いました。実際にどうなのか知りたいと思ったのが、今回調査を兼ねてICANでボランティアしたいと思った動機です。

実際にこちらに来て、3週間が経ちました。タガログ語を必死で勉強しているつもりなのですが、ICANの作業所で働くお母さん達になかなか通じず、毎日あたふたしているばかりです。少しずつですが、お母さん達とよい関係をつくっていけたら、と思っております。

8月18日は、パヤタスで初めて絵本の読み聞かせを体験しました。これは、SALTの奨学生の子どもたちに、ケアセンターにある英語の絵本の読み聞かせをして、子ども達に楽しんでもらい、子ども達が自分で本を読むきっかけづくりを目指しています。7月の下旬から、日本人の学生が2人で交代で来ていましたが、私もお手伝いさせてもらうことになりました。

読み聞かせは、最初は簡単かなと思っていたのですが、子ども達をこちらに集中させることや、何よりも楽しんでもらうことが大変でした。でも大西先生にも助けってもらって、私もタガログ語を教えるもらったりして楽しむことができました。私だけでなく、子ども達も楽しんでくれているといいのですが。



この日は読むことで必死でしたが、「これは何色かな」、「これは何かな」、「これはタガログ語でなんていうの」などタガログ語で質問できるようになればもっと一緒に楽しめそうです。来週読む本を持って帰って、準備しておこうと思います。テスさん(新フィリピン人スタッフ)に、子どもの人権に関する絵本を貸していただいたのですが、それもケアセンターで読めるといいなと思いました。

読み聞かせの後には、日本人学校で小学校の先生をされている大西先生の算数の授業でした。すらすらと簡単に解いてしまう子もいれば、勘で答えを書いている子もいて、差の激しさにびっくりしました。でも、大西先生が丁寧に指をつかって足し算を教えると、急にすらすらと解き始めた子もいました。最後まで残っていた男の子は、足し算の問題がほとんどできていないので、これは違うよと教えてあげると、恥ずかしそうな顔をしていました。ごみひろいをして学校に行っていない子や、授業に追いついていない子がいることを実感しました。

大西先生は、子ども達の心をひきつけるのがとても上手です。足し算をつまらなそうに解いていた女の子も、問題ができるとネズミやブタの絵を書いてあげると、とても生き生きとし始め、帰るときには笑顔になっていました。プリントにブタの絵を書いてもらった男の子が、「レチョン(ブタの丸焼き)」と言っていたのがとてもおかしかったです。

こちらでボランティアとして働けるのも、受け入れてくださる伊藤さんはもちろんのこと、日本のICAN会員の皆様のおかげでもあります。これから3ヶ月という短い期間ですが、よろしく願いいたします。

## パヤタスの現地スタッフ 伊藤洋子さんが日本に来ます！

パヤタスゴミ処分場で ICAN が行う医療支援・技能訓練支援をコーディネートし、現地ソーシャルワーカーとして活躍している、伊藤洋子さんが、10月25日～11月11日に、日本に帰国します。

期間中は、東京・名古屋を中心に、交流会や報告会なども予定しています。在比8年、NGOの国際協力の現場で活躍してきた伊藤さんと、直接、いろいろな話をしてみませんか？

(現在、詳細を計画中です。興味のある方は、9月下旬以降にご連絡ください。また、名古屋地区での、伊藤さんのホームステイ先も募集中です。)



ミーティング風景、真ん中が伊藤さん

## 「ゴミ山で生活する人々」の写真展開催！

フィリピンのマニラから北へ約30分、ここには、毎日トラック1,000台分のゴミが運ばれる「パヤタスゴミ処分場」があります。ゴミ山は腐敗した生ゴミから出る有害なガスに覆われた劣悪な環境です。ゴミ山周辺には、ゴミを拾って生活している人々が約2,000人いると言われています。彼らは、なぜ、このような劣悪な環境に追い込まれてまでも、ゴミを拾って生活するのでしょうか？



私たちは、その疑問を写真を通し、皆様に問い掛けていきたいと思えます。下記の日時で、ゴミ山で生活する人々の写真展を開催致します。どうぞ、ご来場下さい。

日時 9月28日(土)午後～10月11日(金)

9:00～21:00 (月曜:休館、日曜&最終日:17:00まで)

会場 ウィルあいち 1階展示コーナー

入場料 無料

内容 ゴミを拾って生計を立てている人々の写真展示

ゴミ拾いをしてきた女性たちが、自立のために製作した商品の展示

### \*\*\*\*\* パヤタス活動報告会 \*\*\*\*\*

後日上映される映画「神の子たち」の舞台となったパヤタスの紹介や、パヤタスでの ICAN の活動報告を、初日28日午後1時半より(約1時間)行います。参加を希望される方は、事前に G A I A の会 (TEL 052-962-2638) までお申込み下さい。

### \*\*\*\*\* 共催団体 \*\*\*\*\*

(特定非営利活動法人) アジア日本相互交流センター(ICAN)

1994年に設立、97年以降、パヤタスで、医療、職業訓練、フェアトレードなどの支援を行っています。

一人一人ができることを持ち合せて活動しています。

TEL052-582-2244 <http://www.jca.apc.org/ican/>

G A I A の会

1996年設立、「共に生きる」をテーマに学び合い、つながっていく、誰でも気軽に参加できる会です。

TEL052-962-2638 <http://www.bekkoame.ne.jp/~huzu/gaia/>

### \*お知らせ\*

このパヤタスゴミ処分場を背景にしたドキュメント映画「神の子たち」の上映会を開催します。

日時 11月16日(土)午後1時半～

場所 ウィルあいちホール

前売り 1,000円

\*\*\*お問合せ先\*\*\* G A I A の会 名古屋市東区上堅杉町1 風"s内 TEL 052-962-2638

## 写真展「世界のゴミ捨て場から 今、貧困の現実を考える」終了！

松岡 亜湖

7月29日～8月3日、あいち国際プラザ2F アイリスルームで、写真展「世界のゴミ捨て場から - 今、貧困の現実を考える -」を開催しました。フォトジャーナリスト、宇田有三さんがフィリピン・カンボジア・グアテマラ・エルサルバドル・ニカラグアで撮影した写真63点、宇田さんが書いた新聞記事やNGOの活動紹介パネル20点を展示しました。



期間中はおよそ350人がご来場くださいました。おいでになった方は、全ての写真をじっくりと見つめ、中でも、「フィリピンの、生まれながらにして皮膚病に悩む子どもの写真が印象に残った」とおっしゃる方が多数みえました。他にも、全身をハエにたかられながら働く子ども、ゴミ拾いをする母親を待つ子ども、次から次へとゴミを運び込むトラック、巨大なゴミ山の頂上で休憩する人・・・それぞれに迫力のある写真で、何度も足をお運びくださる方も多くみえました。

7月31日～8月2日の三日間は、ニカラグアの会やYWCAにご協力を頂いて学習会を行い、最終日の8月3日には、宇田さんの講演会を開催しました。

講演会は、宇田さんが、ボストンへ留学してフォトジャーナリズムを学んだ時の話から始まりました。この時、インストラクターから「なぜここで、この時間に、この角度から、写真を撮ったのか」などあらゆる質問を投げかけられ、自分の考え・行動・思考パターンを再認識したそうです。自分の中にどれだけ偏見や思い込みがあるかを自覚することは、異なる文化の間で、伝達役を務める人にとっては大切な事だと話していました。

また、取材地の選択にあたっては、「紛争地では、絵になる写真は撮れるが、宗教や民族にはそれぞれに正義があり、どちらかの側に立つ事は難しい。だから、同じ紛争でも、軍事政権下で抑圧されている人を撮影しています」と話しました。

「今後どんな写真を撮影する予定ですか」という質問には、「近い将来、地球では激しい資源の奪い合いが予想されるが、その資源が残っている場所には、先住民が住んでいる。だから、先住民が国家によって抑圧されるのではないかと危惧している。資源収奪合戦の中での先住民の動きを追いたい。」と答えていました。

中学生ボランティアの飯田さんに、写真展の受付などをお手伝い頂いたときの感想を寄せてもらいましたので、ご紹介します。



こんにちは！飯田美奈です。このあいだ宇田さんの写真展でお世話になりました。写真展でのボランティアはやった事がなかったので、楽しかったです。宇田さんの写真を見て、いろんなことを感じました。

一番印象に残ったのは皮膚病にかかった子どもの写真です。まだ幼いのに皮膚病にかかったのが、かわいそうでした。その写真を見て私もあの子たちの力になりたいと思いました。

短い感想だけど感じた事は多かったです。

また写真展とか私の力が必要な時、呼んでください。そのときはクマちゃんの人形をいっぱい売って、その子たちの力になろう！

このような有意義な写真展ができましたのも、(財)愛知県国際交流協会、ニカラグアの会をはじめ多くの皆様にご協力いただき、またボランティアの皆様のお力添えをいただいたお陰です。全ての皆様に、心より御礼申し上げます

## 国際理解講座(第1回、第2回)に参加して

守屋 恵美子

6月29日、8月4日に名古屋国際センターで開催された国際理解講座に参加しました。それまで NGO に携わったことはありませんでしたが、国際協力、特に貧困状態にある子ども達を支援している NGO でボランティアをしたいと考えていたので、この講座に参加することにしました。

第1回講座「支援を受ける人の想い」は、ドリームの一部、ピナツボ・アエタの一部、ICANの一部の三部構成でした。

### 当日のタイムスケジュール

- |               |   |
|---------------|---|
| 10:00 - 10:40 | アイスブレイク(絵を使い他己紹介)                       |
| 10:40 - 12:30 | ドリームの一部(団体紹介、片麻痺の擬似体験、脳卒中後遺症者としての想いを聴く) |
| 12:30 - 13:25 | 休憩                                      |
| 13:25 - 14:35 | ピナツボ・アエタ教育里親プログラムの部(代表の松中さん講演)          |
| 14:35-16:00   | ICANの部(ミニフォトツアー、ロールプレイ、活動紹介)            |
| 16:00-17:00   | 小休憩後、シェアリング                             |



ドリームからの講師、谷本さんと有吉さん

ドリームの一部では脳卒中中途障害者である谷本さんと有吉さんからお話を伺いました。どうしようもないことはあきらめ、現実を受け入れた時に初めて前に進むことができる。それには仲間が存在が欠かせないというお話でした。実体験に基づくお話はとても説得力があり、穏やかに淡々とお話しされるおふたりから、断念することの大切さを教えられました。

その後、関節を固定するサポーターや、狭い視野と視力低下を体験する眼鏡などを着けて、片手・片足が麻痺した状態を擬似体験しました。



奨学生 OB、マリールーとレアが大学を卒業！

ピナツボ・アエタの一部では、松中みどりさんからピナツボ・アエタ教育里親プログラムの活動を紹介していただきました。ピナツボ噴火でもっとも被害を被ったアエタ(フィリピン先住民)の人達への教育支援が実を結ぶまでのお話を通して、支援をする側や受ける側の想いが感じられました。一定期間、一定の支援を行った結果、それ以上支援が必要でなくなるような支援が重要であることや、支援は引き際が難しいといった支援の難しさを知りました。「誇り高きアエタ、頑張り。」という気持ちになりました。

ICANの一部では、ビデオ、写真などでパヤタスの生活やICANの活動が紹介されました。また、ロールプレイでスカベンジャーの家族を演じました。パヤタスの貧しい生活を知ることができましたが、さらに具体的な事例(例えば、どんな家に住んでいるとか、何を食べているとか、お父さん、お母さん、子ども達の1日とか)の紹介があれば、その悲惨さや辛さをより実感できたのではと思いました。

全体を通して感じたことは、支援とは本当に難しいということです。支援する人とされる人の関係、本当に必要な支援は何か、支援の先のビジョンなど、これから少しずつ考えていきたいと思います。



### 当日のタイムスケジュール

10:00 - 12:15 宇田さんのトーク  
12:15 - 13:00 休憩  
13:00 - 15:00 シミュレーションゲーム  
(グループ(=家族)に分かれる、レイテ島・マニラ・パヤタスのそれぞれの設定に合わせ、労働や通学を擬似体験する)  
15:20-16:40 雨森さんのレクチャー  
16:40-17:00 シェアリング、後片付け

**第2回講座「格差はなぜ生まれるの? ~社会的背景および私達の関わり~」**では、午前中は、フォトジャーナリスト宇田有三さんの講演でした。午後からはフィリピンの雇用環境を擬似体験するシミュレーションゲーム、雨森考悦氏の講義がありました。

宇田さんの講演では、フォトジャーナリストになったきっかけ、ゴミ捨て場での取材の話等がありました。「ゴミ捨て場では、注射針などを踏む事もあるが、生きるためには仕方のないリスク。ゴミを取り合う競争社会である」「貧富の差の背景には、植民地支配がある」といった話に、参加者は熱心に耳を傾けました。

シミュレーションゲームはICANとSALTの栄養改善支援を受けているパヤタスの女性のケーススタディーに基づいて作成されたオリジナルゲームで、私もボランティアとして企画に参加しました。参加者は経済危機の影響、雇用主や政府の不当な扱いを受けながらも、毎日食べていこうと、家族で一生懸命働くのですが、収入が不十分なために、レイテ島からマニラ、パヤタスへと流れて行きます。どうしてパヤタスのような劣悪な場所に流れて来ざるを得なかったかを擬似体験しました。



各グループ(家族)で収入計画を立てる

参加者からは「仕事があるときとないときのギャップ、不安定さを感じた」「レイテでは子どもは学校へ行っていたのに、マニラでは子どもも仕事をして家族で働いた。生活だけで必死になった」など、活発に意見が出ました。



その後、雨森考悦氏からフィリピンの貧しい人々の生活、貧困の背景となる社会構造の問題(植民地支配やグローバル化の悪影響)、オルタナティブ(もう一つの選択肢)としてのNGOの可能性について(=格差を広げない選択肢を提供する事ができるか、有効性が問われている)などの講義を受けました。

ではどうすればいいのか? どうすればパヤタスの人達があのような生活から抜け出せるのか? 経済の発展はプラスかマイナスか? 私には何ができるのか? いろいろ考えても頭が混乱するばかりでしたが、唯一確かに思えたことは、どんな支援にも支援する側と支援される側の人と人とのつながりがとても大切であるということでした。これからも、パヤタスの人達、貧困に苦しむ人達のことを思い、私にできることをしながら考え続けたいと思います。

### 第三回 国際理解講座「教材を作ろう」を実施します!

パヤタスの家族や子ども達のためにできることを考え、ともに行動してみませんか

講師:横川 芳江(特活)地球の木 コーディネーター:伴 和子(NIED国際理解教育センター)

日時:9月21日(土)10:00-17:00 会場:名古屋国際センター 参加費:500円

# 私のNGO参加

- “I CAN” 体験のススメ -

松井慎哉

私は今年春からICANにボランティアとして参加し、当初は国際理解教育ワークショップの企画にほんの少しだけ関わったりもしましたが、東京に居を移して以降、翻訳を主にお手伝いしています。これまで3・4回の翻訳の都度、完成度に関しては我ながら<sup>じくじ</sup>忸怩たる思いを抱きつつも、ICANの活動に多少なりとも貢献できることを嬉しく思っています。

ICAN参加は私にとって、NGO初体験でしたが、非常によい団体に出会えたと思いき起こしています。その子どもたちへの深い愛情とともに、常に思慮に満ちた意見に感服せざるを得ない龍田さんのリーダーシップの下、松岡さんのそつのない仕事ぶりや、何よりメンバーの献身的な尽力で、とても活気と魅力に溢れた団体です。より多くの人にICANのよさを理解してもらい、活動の幅を広げる価値があると思います。

恐らくこれを読んでいる大半の方々が、フィリピンの貧しい子どもたちの悲惨な状況に心を痛み、それぞれが何かできることを考えた結果、ICANへの参加を決めたのだと思います。その熱意をもう一段進めて、どんなことでもよいのでぜひ一度ボランティアとして参加してみることをお勧めします。

私はいま東京のセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンというNGOの広報担当職員として働いています。NGOは、日本の市民社会のいっそうの成熟に貢献する大きな可能性と責任を持っているにも拘らず、まだまだその使命を果たし切れていないと実感しています。その大部分は、NGO側の組織運営に関する実績やノウハウの欠如に由来すると感じざるを得ません。だからこそ、ボランティアが持ち寄るそれぞれの経験や知識は、NGOにとって非常に大きな財産になると思うのです。

実際に中で働いて痛感するのは、今NGOに最も必要なのは、従来型のいわば”NGO原理主義”的でストイックな熱意(思いこみ?)が幅を利かせた孤立主義ではなく、多様な背景の人材を受け入れて活動の充実に活かす懐の深さです。実際の仕事や学問の中で培った”生きた”ノウハウや知識を持ったボランティアが増えるほど、ICANの活動の深度が増していくはずですが、資金的な協力は非常にありがたいことです。ですが、ICANの活動に参加し、ICANに必要と感じられるもの、それを補うために自分の能力でできることを積極的に提案してみることが、ICANに、そして自分自身にも大きな成長を与えてくれると思うのです。龍田さんを始めICANメンバーはそうした提言を排除せず活かす道を考えるだけの度量を持った人たちです。そうした主体的で、実効的な資質を持ったボランティアの自然な参加が増えるほど、ICANの活動を発展させ、日本社会の成熟を促し、ひいては世界の貧しい人々の希望の拡大につながるものと確信しています。

## 国際協力フェスティバル2002に参加します！

10月5日(土)6日(日)の10:00-17:00に、東京都の日比谷公園(地下鉄日々谷駅より徒歩2分)にて、**国際協力フェスティバル**2002が開催されます。ICANも参加して活動紹介とフェアトレード販売を実施します！ぜひ遊びにいらしてください！

(国際協力フェスティバル2002に関するお問合せは、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)まで  
TEL:03-3294-5370 FAX:03-3294-5398 E-mail:[icf@janic.org](mailto:icf@janic.org))

## <Summer Greeting Card キャンペーンご報告>

給食プロジェクトの対象校、P.Kindat 小学校、Bawing 小学校と Sarif Mucsin 小学校の子ども達を Summer Greeting カードで励ますカードキャンペーンにご協力くださいました皆さん、ありがとうございました。子どもたちにとっても大きな励ましとなるでしょう。心から感謝申し上げます。

### 【ご協力いただいた皆様】

中村さん、林さん、関さん、福澤さん、沼崎さん、神谷さん、奥さん、小倉さん、西村さん、石堂さん、久保さん、和光国際高校の皆さん、淑徳ペンフレンド同好会の皆さん、NONAKA

## <HAPPY NEW YEAR CARD を送ろう！>

給食プロジェクトの対象校、Bawing 小学校と Sarif Mucsin 小学校、P.Kindat 小学校の子ども達を HAPPY NEW YEAR カードで励ますカードキャンペーンを行います。**彼らへの励ましのカード作り、カード集めにご協力頂けませんか！？**

### カードの形式

- (宛 先) Dear Friend にして下さい。
- (差出人) 名前だけ英語で記述し、住所は書かないでください。
- (内 容) 英語で書いてください。子ども達の英語力が高度ではないため、文章は少なめで簡単な内容にとどめ、絵やシールなどが多いほうが喜ばれます。
- (形 式) 既成の絵はがき、二つ折りカードのサイズでお願いします。  
1 通ごと封筒に入れてください。
- (期 限) ICAN 事務局に、11 月 15 日必着で送って下さい。
- (宛 先) 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11NPO プラザ 2 F ICAN
- (その他) 一通につき 40 円(切手可)ほどのカンパをお願い致します。

--

--

--

--

--

--

--